

流用推薦

すべての人が **夢** を語る社会に向けて

夢ドリムプラン プレゼンテーション

世界大会
Anniversary 10th

感動体験事例

ドリームプラン・プレゼンテーション 10周年アニバーサリー

【 ドリプラ感動体験事例を公開！ 】

この度、すべての人が夢と勇気と笑顔でいっぱいの社会を創るために、「ドリプラ感動体験事例」のご紹介をさせていただくことにいたしました。

ドリプラでは、全員で輝く舞台を創り上げています。

1人ひとりが主役であり、自分の役割や出番を見出している中で、実際に現場で起きている「感動体験」を、集めました。

イベントの裏側では、プレゼンターをはじめ、ドリームスタッフ、ドリームメンター、オブザーバーの方々が自分らしい関わり方で、このドリプラに関わっています。

この「感動体験事例」は、イベントに関わるのが初めての方、ドリプラを知らない方にも「感動」を伝えたいと思い、実話を下に、イベントの過程で感じたこと、自分が実際に経験したこと、なぜ関わっているのか等を、疑似体験いただける内容になっています。

ドリプラを通して、1人ひとりの中にある体験は、ドリプラの世界観であり、社会の縮図でもあり、夢と勇気と笑顔にあふれた社会を創造するための象徴です。

ドリプラに関わる方々の真剣な思いを、是非ご覧ください。

2017年2月1日

ドリームプラン・プレゼンテーション世界大会 10周年アニバーサリー
実行委員長 福島正伸

目 次

P4	夢(ドリーム)プラン・プレゼンテーションとは
P5	ドリプラのテーマ
P6	ドリプラの理念
P7	ドリプラの特徴
P8	感動と共感の2大ポイント
P9	ドリプラの種類
P11	夢とは
P12	ドリプラで自立型人材になる
P13	ドリプラ・プレゼンターの心得
P14	ドリプラの支援者(パートナー)とは
P15	ドリームスタッフ(ドリスタ)とは
P16	ドリームメンター(ドリメン)とは
P17	ドリプラの運営組織・概念図
P18	相互支援会とは
P19	相互支援とは
P20	相互支援の意義<1>
P21	相互支援の意義<2>
P22	相互支援の意義<3>
P23	メンターシートとは
P24	支援者とは
P25	支援者の心得10か条
P26~46	..	ドリプラ感動体験<ドリームスタッフ編>
P47~63	..	ドリプラ感動体験<ドリームメンター編>

夢(ドリーム)プラン・プレゼンテーションとは

■ 夢(ドリーム)プラン・プレゼンテーションとは —だれもがワクワクする感動と共感のプレゼンテーション

事業の概要説明も売り上げ目標や収益性などの数字も示されない
そこにあるのは、最幸の価値の体験とプレゼンターのあきらめない理由だけである

事業の価値を説明するのではなく、見ている人にその事業が社会に広まった時、どんなシーンが起こるのかを体験してもらうのがドリームプラン・プレゼンテーション(以下、ドリプラ)です。プレゼンターは10分間という限られた時間の中で、事業の価値、あきらめない理由を体験的に伝え、見ている人たちに大きな感動と共感を与えます。その結果、真の支援者を集めることができるようになるのです。

私たちの思いは、すべての人々が夢と勇気と笑顔にあふれた社会を創ることです。夢のきっかけは、過去の体験であったり、人との出会いであったり、思いつきであったりするかもしれませんが、しかし、どのようなきっかけであれ、だれもが未来を創造する素晴らしい夢の種です。

とはいえ、どんなに素晴らしい夢であったとしても、それを実現させようとするほど、問題がたくさん見つかるでしょう。けれども、つまり、まわりの人々が夢に共感して、「あなたの夢を、ぜひ応援させてください!」と、言われるようになれば、夢が実現する可能性は飛躍的に高くなります。

人々の心が震え、プレゼンターと同じ思いになる感動と共感の体験型プレゼンテーションによって、夢は現実化していきます。

プレゼンターが、自分らしく輝きながら夢を語り、誰もが一緒にその夢を実現したい、と思い憧れるような存在になる。10分間の感動と共感のプレゼンテーションを通して、輝きながら夢に挑む人々と感動を共有する場が、このドリプラです。

社会に貢献する夢に挑戦する人たちが賛美され、みんなでその夢を応援する社会を創ります。

ドリプラのテーマ

ドリプラとは、感動と共感で心が震える体験型のプレゼンテーションです

夢は感動と共感でしか伝わりません

10分間というわずかな時間で、観客の誰もがプレゼンターを応援したくなる、そして夢を実現に導くためのプレゼンテーションです

ドリームプラン 6つの条件

ドリームプラン・プレゼンテーションで発表するプランは、社会に新たな価値と感動を提供するビジネスプランです。

それは以下の6つの条件を満たすものです。

- 1 社会的（他社）貢献度が高い夢であること
- 2 独自の価値・魅力があること
- 3 将来に向けて発展性があること
- 4 実現のための準備ができていること
- 5 発表者の人生観とリンクしていること
- 6 人々をワクワクさせること

※企業内ドリプラなどでは、業務改善等も「夢」に含むものとします。

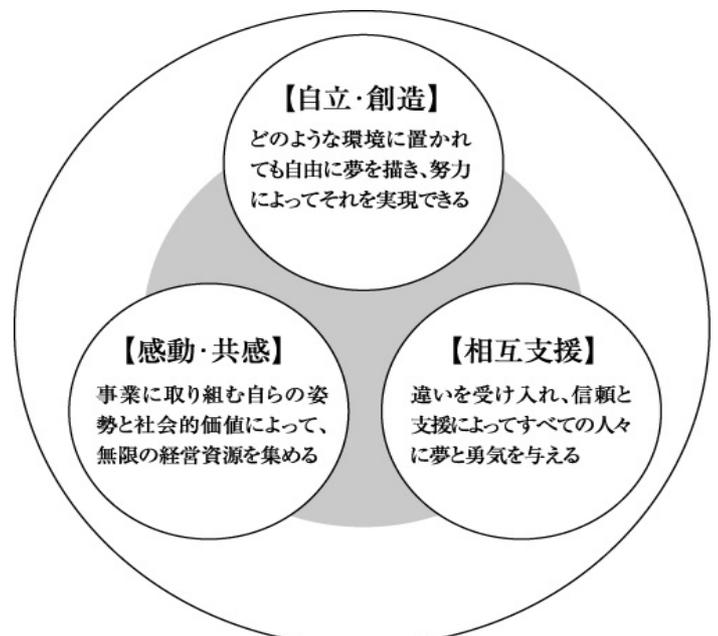
ドリプラ 3大テーマ

ドリームプラン・プレゼンテーションでは、【自立・創造】【感動・共感】【相互支援】を3つのテーマとしています。

誰もがどんな状況でも、夢を描くことができます。皆で助け合えば、感動・価値のある素晴らしいドリームプランができます。

そして感動と共感のプレゼンテーションによって、真の仲間が集まります。

それが夢を実現することにつながるのです。



ドリプラの理念

■「夢と勇気と笑顔に溢れた世界をつくる」

—ドリプラの基本理念

■「夢に挑戦し続ける大人の姿に、子どもたちは心を奪われる」

—格好いい大人たちで世界をいっぱいにする

■「夢で国境を超える」

—すべての人たちが既存の概念を超えて、相互支援する世界を創る

■「自分を超越る」

—自分ができないと思っていたことを実現する

■「ドリプラは過程である」

—過程が最も大切で人間として成長し、一生涯の仲間をつくる

■「制約条件は、成長条件」

—さまざまな制約条件の中で、自立型人材に成長する

■「感動と共感で真の支援者(共感者)を集める」

—困難に挑んでいく最幸のチームを創る

■「すべての人が成長する場」

—プレゼンターも、支援者も、運営する側も、すべての人が悩み、成長する場である

■「相互支援によって、すべての夢を叶える」

—ドリプラは、みんなが助け合うことで成り立つ理想の世界観である

ドリプラの特徴

ドリプラは、参加したすべての人たちが、
会場で感動の涙を流し、その後の人生が
夢と勇気と笑顔で溢れる「夢の発表会」

<ドリプラの特徴>

- 説得・説明禁止、感動と共感を与える「体験型プレゼンテーション」
- プレゼンテーションの時間は、10分間
- 原則、オリジナルの画像と音楽を使う
- 伝えるのは、「最高価値の体験」と「あきらめない理由」
- 原則、数字を示すことはできない
- 競争禁止、相互支援会を通してお互いに支援し合う
- プレゼンターは、パートナー（支援者）とともにプレゼンの準備をする
- 夢を支援する専門家であるドリームメンターが、やる気の支援をする
- 支援会、及び発表会では、すべての参加者は、「メンターカード」に支援のメッセージを書いて、プレゼンターに渡す
- コメンテーターは、夢の評価をするのではなく、プレゼンターをやる気にさせるメッセージを送る
- ノウハウは公開され、誰でも主催者になることができる
- すべての地域、業界、企業、学校などあらゆる場面で開催が可能
- ドリプラに関わることで、全国、全世界のドリプラな仲間たちとつながりができる

感動と共感の2大ポイント

プレゼンテーションの目的は
人間的成長とともに、感動と共感によって
真の支援者(共感者)を集めて夢を実現すること
そのために必要なポイントは
「最幸の価値の体験」と「あきらめない理由」

(1) 最高の価値の体験

その夢が実現することで生まれる最高の価値を、誰にでもわかるような感動の物語として伝えます。夢の価値を説明でなく、疑似体験的に伝えます。最高の価値に感動、共感していただければ、それを実現するために必要な経営資源は、後からいくらでも集めることができるようになります。

(2) あきらめない理由

どんな困難や問題が起ころうとも、どんなに時間がかかろうとも、それらを乗り越えて、夢を実現することができる自分だけの理由を明確にします。自分の過去の体験や感性、人生観と、これからやろうとしている夢をリンクさせます。支援者は、あきらめない理由がある人を支援します。

ドリプラの種類

- ドリプラ世界大会をモデルに、新しいドリプラが次々に生まれています。
- ドリプラのノウハウは無料公開されていますので、誰でも開催することができます。

■地域ドリプラ

地方ドリプラ、市町村ドリプラなど、地域の人たちによる地域のためのドリプラ
お互いの夢を相互支援することで地域が活性化する。

■業界ドリプラ

歯医者業界、眼科業界、美容師業界、建設業界、コンサルタント業界、税理士業界、トラック業界、旅館業界、農家、スポーツ業界など

■テーマ別ドリプラ

漁師の嫁ドリプラ、ティーンズ(子供)ドリプラ、70歳以上シニアドリプラ、再起ドリプラなど、あらゆるテーマで、すべての人たちが夢を持つために行われるドリプラ

■企業内ドリプラ

社員・スタッフによる「理想の会社」ドリプラ
社員同士が支援し合うことで、相互支援の風土を作ることができる

■学校ドリプラ

大学ドリプラ、高校ドリプラ、中学校ドリプラ、小学校ドリプラなど、子どもたちが、他人の夢を応援するほど、自分の夢も応援されることを体験する

■行政ドリプラ

公務員、行政担当者による夢の発表会
行政内だけでなく、地域の人々とともに地域将来の夢を発表することもできる

■海外ドリプラ

上海ドリプラ、シンセンドリプラ、ベトナムドリプラ、ウガンダドリプラ、南米ドリプラ、北朝鮮ドリプラなど、全世界で展開

■家庭内ドリプラ

家族が子どもの夢を応援するなど、家族や親戚などが集まり、家庭内で行うドリプラ

ドリプラを体験する 参考資料

夢とは

- 誰でもいつでも自由に夢を持つことができる
- もし夢を阻むものがあるとすれば、それは自分だけである
- 環境や他人が自分の夢を阻むことはできない
- そして、自分が夢に向けてあきらめずに挑戦し続ける姿は、他人に勇気を与え、他人の夢を育むことができる
- そんな夢に挑む姿に、人々は心を奪われる

<夢の十カ条>

- 【第一条】 夢は、自分がどのような状況にあっても、自由に描くことができる
- 【第二条】 すごいことだけが夢ではない。身近で些細なことでも、すばらしい夢がたくさんある
- 【第三条】 夢を描く時は、できるかできないかを考えないこと
- 【第四条】 夢は、雰囲気を感じるほどまで、明確にすること
- 【第五条】 まわりの人や社会に役立つ夢を持つ
- 【第六条】 夢は、同時にいくつでも持つことができる
- 【第七条】 常に、今目指している夢を、一つ以上は持っていること
- 【第八条】 その夢を考えると、ワクワクすること
- 【第九条】 夢とは、どんな困難を乗り越えても、達成したいものであること
- 【第十条】 行動してこそ夢。行動の伴わないものは、幻である

ドリプラで自立型人材になる

＜ドリプラで人間的成長を図る＞

どんなに高い壁を自分の力で乗り越えて、夢を実現できる人材になる場がドリプラである

■事業を始める前に、事業を成功することができる人間になる

- ・夢を実現する前に、夢を実現できる姿勢を身に付けておく

■プレゼンを作る過程で自立型人材になる

- ・あらゆる制約条件を乗り越え、自立型人材になる

＜自立型人材の定義＞

「いかなる環境、条件の中においても、自らの能力を可能性を最大限に発揮して、道を切り開いていこうとする姿勢」

- ・**プラス受信**—すべての出来事をチャンスとして受け止める
- ・**自己依存**—他人に期待せず、自分自身に期待する
- ・**自己管理**—自らの可能性を最大限に発揮する
- ・**自己責任**—根本的原因を自分自身に見出す
- ・**自己評価**—一流・本物を目指す
- ・**他者支援**—他人を信頼して支援する

ドリプラ・プレゼンターの心得

■「すべてを賭けて、裸になって、自分に挑戦する者たちに、人は心を奪われる」

■だれでもプレゼンターになることができる(ただし、選考がある場合もある)

■原則、ドリプラは何度でも挑戦できる

・ただし、世界大会での本選出場者は、その後の世界大会にプレゼンターとして参加はできない

■プレゼンターになることは、過去の自分を超越る挑戦をすることである。それは、すべての過去を受け入れ、自分のすべてを賭けて、未来へつなげていくこと。

■プレゼンターは、他のプレゼンターの支援者になること。相互支援の関係を自ら創り上げ、仲間をつくる。

■プレゼンターは、誰に対しても感謝の心で接すること。

<プレゼンター心得10か条>

- (1)決して夢をあきらめないこと
- (2)常にプラス受信をして、前向きに考えること
- (3)小さなことでも、できることから行動すること
- (4)自分一人で悩まないこと
- (5)自分の過去や欠点など、すべてを受け入れること
- (6)他のプレゼンターを支援すること
- (7)一枚の写真、一つの言葉に、人生を賭けること
- (8)誰かに聞いてもらう練習を繰り返すこと
- (9)最後は、自分で決断すること
- (10)他人の意見、目の前の問題、すべてのことに感謝すること

ドリプラの支援者(パートナー)とは

■原則、ドリプラはパートナーと二人で夢に挑む

- ・支援者の存在は、夢の実現の可能性を高める

■支援者(パートナー)探しは、夢の実現への第一歩

- ・夢に挑戦するプレゼンターは、孤独になってはならない。どんなときでも、自分を支えてくれる人を探す努力を惜しまないこと

■いつもそばにいて、共に悩み、共に創り、共に感動する

- ・支援者の役割は、プレゼンターを精神的に支えること
- ・支援者は、自分自身の生き方と夢に共感してくれる人
年齢、職業等は一切問わない。家族も、もちろんOK
- ・支援者との関係で最も重要なことは、能力よりも信頼関係
- ・支援者は、どんな時もプレゼンターの立場になって考え、信じてそばにいる

■同じ意識で、同じレベルで、同じことができるように

- ・原則、支援者は、プレゼンターとともに相互支援会にも出席する
- ・できれば、支援者は、たとえプレゼンターが体調を崩しても、同じことができるように準備しておく

■他のプレゼンターの支援もする

- ・相互支援会では、他のプレゼンターのためにできる支援をする
情報を提供したり、励ましの言葉をかけたり、相互支援の考え方を実践する

ドリームスタッフ(ドリストタ)とは

■夢の舞台のサポーターとして、ドリプラの世界観を創り上げる

- ・受付、誘導など、スタッフが創り出す雰囲気は、ドリプラの雰囲気を決める
- ・表情、行動、対応など、すべてがドリプラ。一つの笑顔が、ドリプラ。
スタッフは誰よりもドリプラを楽しむ
- ・スタッフはドリプラの「顔」

■原則、希望者はだれでも、スタッフになることができる

- ・ドリプラの主旨に共感した人は、原則、誰でもスタッフになることができる
- ・原則、ボランティアとして参加する
- ・ネットで告知をしたり、口コミによって集める
- ・事前にスタッフミーティングを行う
役割や進行手順の確認だけでなく、プロのサービスの経験者などからそのノウハウを学ぶ

■自発的な行動で、感動の対応をする

- ・ドリプラ当日は、スタッフリーダーのもと、担当ごとに分かれて行動する
その際、相互支援を意識して行う
- ・たとえ指示がなくとも、自分で考えて自発的に行動する
その目的は、参加者全員を笑顔にすること

■みんなで一緒に感動の涙を流す

- ・ドリプラスタッフは、最幸の仲間たち
- ・相互支援によってできたスタッフ間の絆は、一生涯続く

ドリームメンター(ドリメン)とは

<ドリームメンター>

夢を支援し、プレゼンターをやる気にさせる専門家集団

ドリプラにおいて、厳しい制約条件を乗り越えてプレゼンテーションを創り上げていくために、教えるよりも、やる気にさせることが大切です。

ドリームメンターとは、究極の支援者としてのあり方をメンタリングを通して学び、実践的演習を重ねた、やる気を引き出す支援のプロ集団として、夢に挑戦する人に寄り添い、いかなる困難をも乗り越える勇気を与え続け、相手の人生を輝かせることを本気で楽しむ存在です。

今、最も社会で必要とされるのが、やる気を引き出すノウハウを身に付けた真の支援者です。ドリームメンターは、まさにその真の支援者であり、夢を実現しようとする人たちにとって、最も信頼できる存在です。

■事業を成功させるのではなく、事業を成功させることができる人を育てる

■管理(コントロール)するのではなく、支援(メンタリング)する

- ・支援とは、プレゼンターのやる気を引き出すこと
- ・やらせるのではなく、やる気にさせる
- ・プレゼンターが自分の力で、困難を乗り越えていくことができるように導く
- ・プレゼンターのために尽くす、はげます、感謝する、学ぶ、きっかけを作る
- 自分の出番を探す、一緒に悩む、一緒に感動する、一緒に泣く
- ・あくまでプレゼンターが主役

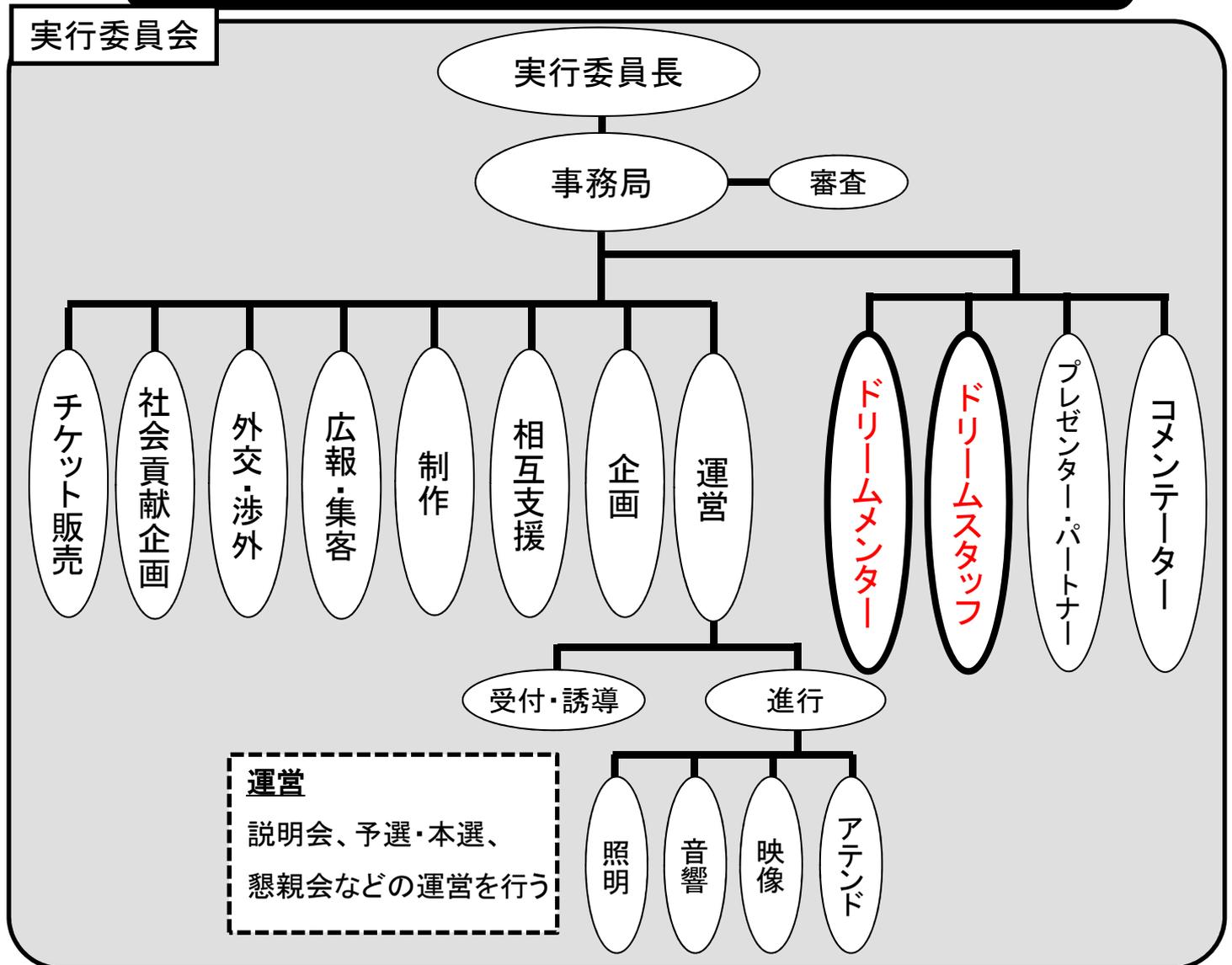
■ドリームメンターは、究極の支援者を目指す

- ・ドリプラは、その実践の場

■ドリームメンターは、メンタリング(支援)のノウハウを積み上げ、共有する

- ・ドリームメンター同士のレベルを上げることで、夢を実現できるたくさんの人たちを育てることができる
- ・ドリームメンターのレベルが高くなるほど、日本が、世界が夢と勇気と笑顔でいっぱいになる

ドリプラの運営組織・概念図



	役割	担当
実行委員長	大会責任者、理念・ルールの普及	
実行委員会	運営母体、品質管理、全体調整	
事務局	プロジェクト管理、会計	
審査	1次審査、予選審査、本選審査方法	
運営	ドリプラの予選・本選の運営、準備／説明会、懇親会の運営	
企画	ドリプラの企画全般／事前説明会／懇親会など	
相互支援	相互支援会の企画運営	
制作	パンフ、チラシ、チケット、映像、DVD、Webなど	
広報・集客	企画立案・進捗管理	
渉外	スポンサー、他の主催者との連携	
社会貢献企画	中学生・高校生の招待の連絡や社会貢献企画を行う	
チケット販売	チケット販売構築	

相互支援会とは

■目的

- ・プレゼンテーションと事業計画書の作成を通して、夢を叶えられる自立型人材になること

■全員の夢を具体的にする場

- ・落ちこぼれはつぐらない。すべてのプレゼンターが最高のプレゼンテーションができるように支援する
- ・お互いに発表し合うことで、自分を客観的に見ることができ、相互のレベルアップを図ることができる

■自分の枠、限界を超える場

- ・自分一人ではあきらめてしまうことも、お互いに助け合うことで、自分の限界を超えて、成長することができる

■絆を作る場

- ・お互いに助け合うことで、たくさんの仲間との絆をつくることできる

■開催方法

- ・全体支援会 月1～2回、一回当たり5～6時間
- ・会場内に、事業計画・収支計画作成や知的財産などに関する専門家による相談ブースを設置することもある

※個別支援会 週一回くらい(直前は毎日になることも)

相互支援とは

■夢は、一人で実現することが最も難しく、みんなで一緒に実現することが最もやすい

■夢はみんなで一緒に実現する

- ・自分が他人を支援するほど、他人から支援されるようになる
- ・集まる人が全員で他人の夢を応援すると、全員の夢が叶うようになる
- ・他人は支援する対象。競争するのは昨日の自分
- ・相互支援によって、最も大切な経営資源である勇気を共有する信頼できる仲間がいれば、耐えられない苦しみはなくなる

■経営者は孤独であってはならない

- ・経営者は、いつでも応援し合える友達がいっぱい
- ・始める前に、仲間の創り方を体験し、仲間をいっぱい作っておく

■自分が相手のために何ができるかを考える

- | | |
|----------------|---------------|
| ○笑顔で接する | ○感謝する |
| ○相手から学ぶ | ○人を紹介する |
| ○自分の体験や事例を伝える | ○情報を提供する |
| ○知識や技術を教える | ○アイデアを出す。提案する |
| ○相手の強みを見出して伝える | ○感謝や励ましの手紙を書く |
| ○真剣に話を聞く | ○一緒に考える、一緒に悩む |
| ○自分の出番を見つける | ○励ます、誉める |
| ○一緒に体験する | ○促す |
| ○そばにいる | ○自分の意見を述べる |
| ○最後は相手にゆだねる | |

相互支援の意義<1>

<相互支援で、すべての人の夢が叶う>

●何か新しいことに挑戦する人たちは、孤独であってはなりません。どんなことでも、一人で実現することが最も難しく、みんなで力を合わせて一緒に実現することが最もたやすいものです。

どんなに高い壁でも、みんなで力を合わせれば登ることができるようになります。元来、人は助け合うことで何でもできる存在なのです。

では、そのような助け合う相互支援の関係は、どのようにすればできるのでしょうか？

それは自分がまず相手を支援することでつくるようになります。人間関係においては、自分が相手を支援するほど、相手からも支援されるようになるからです。他人は競争する相手ではなく、支援する対象であり、競争するのは昨日の自分だけです。

また、信頼できる仲間がいれば、耐えられない苦しみはなくなります。相互支援によってどんな困難にもめげない勇気を共有することができるようになります。

こうして集まった人が全員お互いに夢を応援すると、全員の夢が叶うようになります。

プレゼンターは、発表までの過程を通して相互支援による仲間のつくり方を体験し、仲間をいっぱいつくっておくことができます。その後は、いつでも応援し合える仲間が溢れた人生になるでしょう。

<プレゼンテーションは一人で創らない>

●相互支援会とは、プレゼンター及び支援者が全員集まり、お互いに支援をし合うことで、「夢が実現した時の最幸の物語」と「あきらめない理由」を具体化し、プレゼンテーションのレベルアップを図る場です。

すべてのプレゼンターが最高のプレゼンテーションができるように相互支援します。

相互支援会では、お互いに発表し合うことで、自分を客観的に見ることができ、相互のレベルアップを図ることができます。

また、自分の枠、限界を超える場であり、自分一人では、あきらめてしまうことも、お互いに助け合うことで、自分の限界を超えた成長を図ることができます。

さらに、お互いに助け合うことで、たくさんの仲間とのつながりをつくることができます。

一緒に助け合いながら困難を乗り越えていく体験は、一生涯に渡る真の仲間をつくることにつながります。

<相談することは、感謝すること>

一度相談したら、一枚の感謝の手紙を出しましょう。一度でも相談に乗っていただいた方は、将来のパートナー候補であり、最初の有力な顧客になる可能性が高いのです。

自分のために時間と労力を伝ってくださったことに感謝しましょう。

一度、相談に乗ってもらった人には、3カ月に一回くらいは、進捗状況を報告します。その後の対応が大切です。

プレゼンテーションづくりを通して、人として信頼される関係を構築するようにしましょう。

相互支援の意義<2>

<昨日の自分を超越するために、仲間がいる>

- 頑張っている仲間がいるから、自分も頑張ることができます。どんどん進化する仲間がいるから、自分の努力が足りないことがわかります。仲間は、どんな人であっても自分の見本です。
- 信頼できる仲間がいれば、人はどんな苦しみも超えていくことができます。一方、孤独な時、人は困難に負けてしまって、やる気をなくしてしまうことがあります。

<支援するほど、支援される>

- 仲間を支援するほど、自分も支援されるようになります。人間関係には、たった一つの法則しかありません。それは、やったことが自分に返ってくるということです。

<他人の夢を支援するほど、自分の夢も叶う>

- 人は、一人きりでは足りない経営資源がたくさんあります。長所もあれば、短所もあります。一方で、自分にはないものは他人が持っています。
- すべての人の夢が叶う社会は、相互支援によって生まれます。誰か一部の人の夢が叶うだけの社会では意味がありません。
- 過去に、まわりの人を応援しておくほど、応援される人になることができます。他人の夢を応援するために人が集まるということは、全員の夢が叶うということです。
- 一人で夢を実現することが最も難しく、すべての人の夢を同時に叶えることが最も簡単なのです。
- 他人の夢を実現しようとするほど、自分の夢も叶っていきます。他人の夢を応援するために人が集まるとすべての人の夢が実現するのです。

相互支援の意義<3>

<相互支援会で成長する>

●相互支援会を通して、夢を始める前から何があっても動じない自分になることができます。

●相互支援することは、それぞれが自分に足りないものを集めることで、より自分らしくなることができます。

●人に教えることもまた、自分自身が成長することです。将来、自分が同じような状況になった時に、どのようにしたらいいかを他人に教えることで学ぶことができるからです。

他人に対しては、客観的で、広い視野から冷静な判断をすることができます。しかし自分自身のこととなると、どうしても感情や過去の経緯、思い込みにとらわれてしまうことがあります。そうになると、冷静な判断が難しくなってしまうのです。

●お互いが助け合い、それぞれが学び成長するために、人間はみんな違っているのだと思います。違うからこそ、助け合うことができます。人間は違うからこそ、高め合うことができるのです。だから他人は、信頼し支援し、感謝する対象でしかないのです。

●みんながお互いに学び、成長していくことが大切です。いろんな意見、いろんなアイデアを、すべて受け止め、その中から、自分の感性に合うものを選んで成長していく。自分の価値観を大切に生きるのです。

●他人は自分らしさに気づくためにいます。自分とは違う他人がいることで、自分らしさに気づくことができます。自分がいることで、他人にとって、その人らしさに気づくことができます。

人が「出会う」ということは、お互いに刺激し合い、学び成長し感謝し、そして、自分らしさに気づくことです。それは一緒に、それぞれが自分らしくなり、それぞれの夢を実現することになります。

<自分から声をかけて開催する>

●決意に人は動く

支援会を開催したい時は、「どこどこの店で、〇時から〇時まで、一人で待ってます」といった内容で、メールで知人や関係者に送ります。に書いて待っていたらきっと誰か来ます。たとえ、誰もいなくても一人でちゃんとそこで待っていることが大切です。その姿勢が、信頼関係を創り、仲間をつくり、支援者を集めます。

プレゼンテーションの準備を通して、ゼロから仲間を集める練習をしておきましょう。それは、自分自身に期待する生き方を実践するチャンスです。

<他人を支援することは、自分を支援すること>

●できる限り普段から、他人の支援会に参加して支援するようにします。それを積み重ねることで、自分の支援会に人が集まってくれるようになります。

自分がやったことが自分に返ってきます。他人を支援することは、自分を支援することでもあるのです。

メンターシートとは

■メンターシートとは

- ・プレゼンターをやる気にさせる支援を書いて、プレゼンターに渡すシート
- ・課題を解決するのではなく、課題に挑戦する勇気を与えることを目的とします
- ・プレゼンテーション、事業計画書の支援内容を記載する

■ドリブラの発表会での使い方

- ・プレゼンターを支援するため、観覧者全員で、自分がプレゼンターのためにできることを書いて渡す
- ・プレゼンター一人に対して、一枚のメンターシートを記入

■相互支援会での使い方

- ・相互支援会で支援者がプレゼンターに渡す
- ・プレゼンター同士も、お互いにメンターシートを渡す

■書き方の基本

- ・感謝—プレゼンターの話聞いて感謝できることを見つけ出す
感謝は、人間関係を良くする
- ・学び—プレゼンターから学ぶ
プレゼンターの存在価値を高める
- ・共感—プレゼンターと自分との共通体験、または共通概念を探す
夢の社会的価値を共有する
- ・賛美—プレゼンターの長所を見つけ出して、賛美する、喜ぶ
- ・出番—プレゼンターの短所を見つけ出して、自らの出番に変える
- ・支援—信じる、そばにいる、仲間になる、励ます、尊敬する

支援者とは

<支援者とは>

●支援者とは、プレゼンターが夢を描き、そしてあきらめない理由を掘り下げる支援をして、最高のプレゼンテーションをつくり上げていく協力者です。そのためにも支援者は、どのような時もプレゼンターを信頼して、やる気にさせるように努力します。そこでは、人をやる気にさせるためには、後述のノウハウを使います。

人は一人ではとても弱い存在です。自分の壁を乗り越えていくためには、支援者の存在が欠かせません。人はどんな時でも自分を信頼して、支援し続けてくれる人がいることで、大きな勇気が湧いてくるものです。

支援者は、プレゼンターが大きな課題に出会って前に進むことができない状態になったとしても、あきらめずに自分ができることを探して支援し続けます。また、支援者は、夢が実現する可能性を高めるために、より魅力的な「理想のチームづくり」を一緒に追求し続けるのです。

さらに支援者は、課題を自ら見出し、自分の出番に変え、どんな時も励まし、精神的にも支え続けます。

こうして支援者自身も、気づきと学びの毎日になります。他人を支援することは、自分自身が成長できる大きな機会にもなるのです。そして、最後にプレゼンターとともに味わう感動は、忘れられないものになるでしょう。

このような体験を一緒にすることで、プレゼンテーション後もプレゼンターの理解者でありパートナーとして、夢を実現するために協力し続けることでしょう。

●支援者は、プレゼンターのみならずの夢・可能性を信じる・魅力信じます。その生き方が、プレゼンターに伝わってしまうからです。

<信じて、そばにいる>

●悩んだ時間、考えた時間がプレゼンテーションのクオリティになります。プレゼンターの悩みを解決するのではなく、プレゼンター自身が悩みを突き抜けると、それによってプレゼンテーションのレベルが飛躍的に変わります。その人の次元が変わるのです。

●プレゼンターが悩んでいる時は、安易に解決しようとせず、とことん悩む時間をつくるようにします。支援者が解決したとしても、本人が自分の力で解決しなければ、本当の意味で解決したことにはなりません。さらに、支援者が解決すればするほど、プレゼンターは問題があれば支援者に解決してもらおうと、依存してしまいます。

そもそも、その人の問題は、その人自身が解決しなければならないものです。支援者がやるべきことは、その解決のキッカケを創ることです。問題解決のためのキッカケと一緒に探し続け、なかなか見つけることができなくとも、そばにいる勇気が必要になります。人は自分を信頼してそばにいてくれる人がいる限り、どんな苦しみであっても耐えることができるからです。

たとえば、本人が「もう、無理！すべてが白紙になった！」「あきらめた・・・」と言ったとしても、支援者はあきらめません。ずっと、信頼してそばにいます。本人以上に、本人の可能性を信じるのです。その意味で、支援者にとって最も大切なことは、人には無限の可能性があると信じていることです。

そんな人がそばにいる限り、プレゼンターは心の底から前に進む意欲が湧いてきます。心の底では誰もが、自分の夢や可能性をあきらめたくない、と思っているのですから。

支援者の心得10か条

●支援者の心得10か条

＜プレゼンターを信じ、夢を信じる＞

プレゼンターがどんな状況にあったとしても、プレゼンターがその夢を実現できると信じる。動じない。プレゼンターよりも、プレゼンターの夢が実現することを信じる

- (1) プレゼンターの夢を、自分の夢の一つにする
- (2) 支援とは、プレゼンターをやる気にさせること、本当の想いを引き出すこと、一歩踏み出す勇気を与えること。自分も本気になること。
- (3) 自分から自己開示する。自己開示は信頼関係をつくる。自己開示は他者開示につながる。
- (4) プレゼンターのために尽くす、役に立つ、貢献する
- (5) プレゼンターを否定しない。どんな時も、前向きな意見しか言わない
- (6) プレゼンターから、自分も学ぶ、成長する
- (7) プレゼンターと同じ気持ちになって、泣く、笑う、感動する
- (8) 支援の機会をいただいていることに感謝する
- (9) 最後はプレゼンターに決めてもらう
- (10) 最高の支援とは、どんな時もそばにいて、何もしないこと。夢を支える以上に、プレゼンターの心を支える

ドリプラ感動体験 ＜ドリームスタッフ編＞



ドリプラ感動体験シート

ドリプラに関わるのは初めてです。本当に何も分からないままでした。
きっかけは、「大人が夢を本気で語る場があるよっ！」と言われたことでした。

そして、「その大人の夢を本気で応援する人がいるっ！」と聞いて、「まさか？」と思いました。
けど、その次に浮かんだのは「見てみたい・・・。」という気持ちでした。

私はどこかで、大人になったら夢なんて、持っても意味がない、持っちゃいけないもの、
夢を語ると馬鹿にされるんじゃないかと思っていたのです。

やりたいことはある。でももうこの年じゃあできることなんか無いんじゃないか。
やったとしても、ダメなんじゃないかという日々の中、
ドリプラの世界観に興味を持ち、スタッフとして飛び込んでみました。

すると、その世界は・・・「HENTAI」の世界でした(笑)

夢を本気で語る人は、「プレゼンター」と呼ばれ、
その人たちを一流の「HENTAI」が全力で応援する。

応援すること、助け合うこと信じるのが、当たり前に行われている場の中に自分がいると、
自分の夢も実現できるのではないか、やれるんじゃないかと思えてくるのです。

そして、いつかそれが「やってやる！」に変化していました。
自分の心の変化に、私自身が驚いています。

こうして、いつの間にか、私も夢へのチャレンジが生まれ、
自然と応援することができるようになりました。
ドリプラに関わるすべての人に感謝です。

ドリプラ感動体験シート

私がドリプラに関わろうと思った理由。

・世界大会のDVD映像を見たこと

全く知らない人の夢なのに、純粹に涙が出てきて、この人こんなに辛い思いをしたんだ、この人こんなに頑張ろうとしているんだ、というのがストレートに伝わってきました。

・夢を堂々と言うことは恥かしいけれど、応援してサポートしてくれる人がたくさん増えることで夢を叶える瞬間により近づけるということを教えられました。

・私自身も、素直に本音で生きたいと思いました。

・夢を追う人のそばにいれば、何か自分の夢も見つかるのではないかと考えることができました。

・ワクワクした空間を味わいたい、そして作り出したい、役に立ちたい！

・何より、キラキラしている人の側にいたいです。

ドリプラ感動体験シート

悩んで悩んで、それでもプレゼンがまとまらず、
考えがまとまらなかったプレゼンター。

途中、「大丈夫かな・・・」と思った時期もありましたが
彼を信じて見守ることにしました。

最後の最後、信じられないほどの自信に満ち溢れたプレゼンを見て
思わず涙が出てきました。

人はどんなところからでも
成長することができることを知りました。

やり遂げた人は、カッコイイ！

・・・余談ですが、夢について語り、応援していたら
なぜか寿司が出てきました。新宿で！

ドリプラ感動体験シート

仕事がうまくいかずに、悩み、病気になること。

仕事は楽しめないとか、生きるためだと義務的にやっていること。

仕事で必要となる力と、学校で学ぶことには大きなギャップがあること。

もっと仕事を楽しめる。

スキルを身につける。

心を変える。

MBAなどの高いレベルではなく、ごくごく普通のレベルの学校をつくりたい。

自分が思っていることとやりたい事は、年月とともに思いが弱くなっていることに気づき
自分を見つめ直したいと思い、ドリプラに参加しています。

ドリプラ感動体験シート

「メンターカードの存在」

初めてドリプラに参加した第1回目の相互支援会。

これまでに参加したことがある方々以外は、
初めての人は、夢の話をする方も、夢を聞く方も、
最初は遠慮と戸惑いが渦巻いていたと思います。

どんなリアクションをすれば良いのか？
感想と言われても価値観なんて人それぞれだから、
全部のプレゼンターを応援する気持ちに本当になれるのだろうか？
このまま1日、ここで過ごせるのかな？と不安になっていました。

そこに登場したのが、「メンターカード」

プレゼンターの手にぶ厚く集まったそのカードは、不安でいっぱい
のプレゼンターさんをほっこり笑顔にしていました。

その時、肩の力が抜けて「よし！ やってみるぞ！」とお腹に力が入っていました。

1枚、1枚丁寧に、大切そうに読み返すプレゼンターさん達の変化が、とても印象的で
「伝える」ことの大切さを改めて、しみじみと感じました。

熱い情熱だけではなく、温かな空気もあり、ドリプラすごいかも！

ドリプラ感動体験シート

ドリプラ世界大会の本選で、大人たちが熱く、
涙しながら全力で夢を語る姿を見て、感動しました！

夢とは、仕事の職業のことだと思っていましたが
夢とは、いろんな形や人それぞれの思いから創られるものだということを学びました。

人は感動すると、どういう気持ちになるのかを体験しました。

ドリプラ感動体験シート

2013年、はじめてドリプラに関わりました。

ドリームメンターでもなく、知り合いがいる訳でもなく、オブザーバーとして見よう見真似で、「今できること、全てやろう。」とだけ決めて、支援会へ参加する日々でした。

そして、あるプレゼンターの方の個別の支援会(相談する場)にて。本番まで2ヶ月、ストーリーはできているけれど、「あきらめない理由」がまだ落としこみきれていない、そんな状態でした。

仕事終わりの21時頃から集まって、人もポツポツと減ってもう午前4時くらいだったと思います。

煮詰まってきたこともあり、参考になればと、今まであまり人に話したことがない子供時代、学生時代の親との関係を彼に話してみました。

そうしたら、とても共感をしてもらえて、プレゼンの軸がハッキリ見えたのと、プレゼン作成がガンガン進んでいきました。

特に取り柄のない自分の楽しくない昔話が、誰かの役に立てるんだと、心から実感でき、自分自身を受け入れる大きなきっかけにもなりました。

そして、素晴らしい仲間を見つけることができ、ドリプラに関わって、本当に良かったと思っています。

ドリプラ感動体験シート

私が、最も充実感を味わったのは、プレゼンターを応援したいという
「共通の熱い思いを持ったみなさんと一緒に活動」して、その中で
「自分の出番を探して行動する」ことができたことです。

ドリプラ感動体験シート

実際にドリプラの大会は、見たことがありません。

ですが、知り合いにドリプラのプレゼンターをやった方がいます。

その方は、清輔夏輝というNPO法人の代表です。

清輔さんから、ドリプラの存在を知り、大人が夢を語る、やりたいことを実現するなど

自分自身がもやもやしているものに対して、

熱く世界を変えようと取り組んでいる会社があるんだと伺い、人の夢、感動に関わりたいと思って
スタッフ参加を決めました。

今回の参加で、自分の人生も変えていけたらと思っています。

ドリプラ感動体験シート

相互支援会でお弁当を1人ひとりに手渡しする時に、
「ありがとう。」
笑顔でお弁当を受け取っていただけることに
感謝の気持ちがわきました。

ドリプラ感動体験シート

スタッフになって、4年くらい経過した頃、
突然ドリプラに関わるのが、苦しくなった時期がありました。

イベントを通じて、仲良くなったプレゼンターは、みな人間的に成長し、カッコよく見えました。

一緒にスタッフをやっている仲間は、人をまとめる能力が高かったり、パソコンに強かったり、
映像が作れたり、すごい方ばかりでした。

それに比べて、私は、何もありませんでした。

プレゼンターが夢に向けて、挑戦し、輝いているのに、
職場の自分は何も挑戦しない、組織すら変えられない人間でした。

周りのスタッフのように、パソコンも強くないし、映像も作れません。
なんて役立たずなんだろうと気づいてから、恥ずかしくて顔を出すことができなくなりました。
「こまっちゃん、待ってるからスタッフ帰ってきて。」
と言われても、それは無理だと思っていました。

半年くらい経過し、ほんの少しだけ仲間に会いたい、寂しい気持ちになったので
スタッフMTGに参加したら、嫌な顔ひとつせず、温かく迎えてくれました。
私は胸の内をありのまま話すと、みんな声をかけてくれました。

「こまっちゃんは、いてくれるだけで、安心するんだよ！」
「パソコンとか映像とか、こまっちゃんに求めてないから大丈夫～！」
「笑顔と存在感でスタッフを盛り上げてよ！」

みんなの言葉が、本当に嬉しかったです。

ドリプラ感動体験シート

「ドリプラという場で、はじめて自分自身が、心の底から意見を言える経験ができて自分の夢を言えたこと！」

プレゼンターが、夢を考える過程の中で、自分自身を見つめ直すきっかけになりました。

はじめは、自分に向き合うことが本当に辛くて、目を背けがちになっていたり、自分のモヤモヤの出所が分からなくて、苦しかったけどどんなにつたない言葉でも聞いてくれて、ただ共感してくれてドリプラの場で少しずつ表現できるようになったことでそれ以外のところでも、「役」としての自分ではなく、本当の自分を見失わなくなってきました。

もちろん、まだまだ目を背けそうになることはあるのだけれど自分が、背けていたモノが何か、自分で分かるようになったのです。

最近、「前よりスッキリして、晴れやかになった！」と言われて嬉しかったです。

昔から、「キャラ」を演じがちで、自分の居場所を感じてこなかったため「居場所」という言葉に興味をもった理由だと気がついたその瞬間、私は今までの自分では無く、初めて明確な理由を持った夢を持ちました。

夢なんてない、サラリーマンになって高給取りになる将来を描くことしかできなくてそれを敷かれたレールだと思い、苦痛だったけれど、例えそのような将来になっても自分で選んだと思えるようになりました。

Twitterでドリプラを見つけて本当に良かった！

ドリプラ感動体験シート

業界ドリプラにプレゼンターとして参加しました。

それまで私は、「現実なんて・・・」とあまり希望が持てず
周りの人にも心が開けない人間でした。

そんな中で、ドリプラに参加をすると、周りの人とも心が開けるようになり
「まだまだ現実も捨てたもんじゃない。」と確信しました。

それから夢や仲間、恋人も出来て今は幸せです。
「生きていて良かった。」これ一言です。

ドリプラ感動体験シート

昨年12月5日に、6年半の辛く苦しい「うつ病」を卒業しました。

その数日後に行われたドリプラ世界大会2015。

仲間の方に、この大会の運営スタッフを手伝ってほしいと依頼されました。

これが、僕のドリプラ世界大会初体験。

任された役割は(ドリプラを知らない僕なのに)「受付リーダー」。

正式には、受付の素敵な女性のみなさまを守るボディガード。

自分の仕事では、現場でリーダーや責任者を長く経験したこともあり、
受付対応には慣れていて、落とし物があっても、すべて持ち主に返却できました。

自分としては、できる範囲の役割として全うした事が、
たくさんの方々から賞賛を受けるなんて、驚きでした。

僕は、絶望が希望となったばかりでしたが、
瞬時にして、その希望は、夢に変わりました。

僕がうつ病の時に相談に乗っていただいた福島先生にも恩返ししていきます。

ドリプラ感動体験シート

「ドリプラって何？」

本気で夢を語るって特別な人たちなの？

と思いながら、初めてドリプラを見にいきました。

でも、最初のステージで夢を語るプレゼンターのみなさんは、特別な人というより自分の近くにもいる、どこにでもいる人に感じました。

でも、夢を語るその姿は、「本気」そのもの。

本当に理想の夢なのに、「本気」でプレゼンしている。

その本気が自分の心に真っ直ぐに伝わり、全く知らない人だったのに

心をつかまれたように、本気で応援したくなりました。

涙が出ました。なぜなのでしょう。

周りの人も、同じように、目を輝かせてプレゼンを聞いて

心からの拍手を送り、みんなが笑顔、そして感動の涙。…なぜなのでしょう。

その理由が知りたくて、私は参加しています。

ドリプラ感動体験シート

ドリプラに関わろうと思った理由。

知人が、プレゼンターの方の講演会に誘ってくださったが
予定が合わず、行くことができませんでした。

ただ、プレゼンターが目指していることが、私が将来叶えたい夢と重なる部分があったため
是非、お話を伺いたいと思いました。

ネットでプレゼンターの方を検索した所、「ドリームプラン・プレゼンテーション」がヒットし、
ここへ辿り着きました。

「ドリプラ」の内容を調べると、スタッフを募集していることを知りました。

STAFF MTGと相互支援会の日程が掲載されており、予定を確認してみると
1日以外、全部参加できる！と思い、思い切って飛び込みました。

飛び込もうと思った大きな理由は、私はこれまで様々な夢を叶えてくることができたのは
私の力というより、他にサポートして下さった方々がいたからです。

そして、私がこれから叶えていく夢は、1人でも多くの人をサポートになることです。
だから、ここで、その方法を学びながら、自分の夢を叶えたい！というのが理由です。

私がここで学んだ多くの、ノウハウを1人でも多くの人に伝えて
夢を叶えて欲しい。そして自分の人生を、自分の足で歩んで欲しい。

そのサポーターになるため、勉強させてもらっています。
ありがとうございます。

ドリプラ感動体験シート

今回初めてドリスタとして、ドリプラに関わらせていただいています。

きっかけは大きく3点です。

①ドリスタの様子

募集ページの写真や、ドリプラに参加したことのある方からのお話から

「みんな楽しそうにしている」という様子が伝わってきて

自分も実際に体験してみたいと思いました。

②ドリプラの映像

もう7年くらい前ですが、別の機会で、ドリプラのプレゼンテーション映像を見ました。

情熱を持って語りかける姿に思わず引き込まれてしまったことを今でも覚えています。

③福島正伸の人柄

セミナーでお話される夢や内容も大変素場らしいのですが、東日本大震災の時に

現場で頑張っている方々のことを想い、応援メッセージを集めている姿に、とても感動しました。

ドリプラ感動体験シート

私のドリプラとの出会いは、保育ドリプラでした。

私が、未来の子供たちの笑顔を応援することを選んだ時に、
保育ドリプラの実行委員長と出会いました。

そこから、私が出会いたかった方とのご縁がたくさんあり
今では、自分が働く職場にも広がっています。

私がやりかたった「夢」を企画した時も、保育業界を始め、ドリプラに関わる方々のおかげで
無事に開催することができました。

その場から、世界大会のプレゼンターを目指して
エントリーされた方がいたことも嬉しかったです。

これからも、「人と人の場をつなぐ」という機会を、作っていきたいです。

ドリプラ感動体験シート

私は、学校ドリプラをやりたいと思い、前の勤務していた学校で生徒にドリプラ世界大会の映像を見てもらった後に私が、生徒の前で夢を発表しました。

3時間くらい、映像や私の発表を見てもらった後に、生徒自身が将来やこだわっていること等について考えるディスカッションをしました。

そして、最後に、修学旅行先で訪問する会社で夢を発表したい人を生徒に質問するとなんと、クラスの3分の1が手を挙げてくれました。しかも、自分からです。

これには、私が驚きました。夢を本気で語ることの説得力、感動させる力の凄さを感じました。

この取組みを通して、学んだこと、それは、夢を語ることによって自分が何をしたいのか、よく分かったこと、大きく成長できた事と夢の発表をした生徒達が、自分に自信を持ってくれたことです。夢に向かって、勝手に動き出したのです。

その経験があり、ドリプラに今関わっていることに、心から感謝しています。

ドリプラ感動体験シート

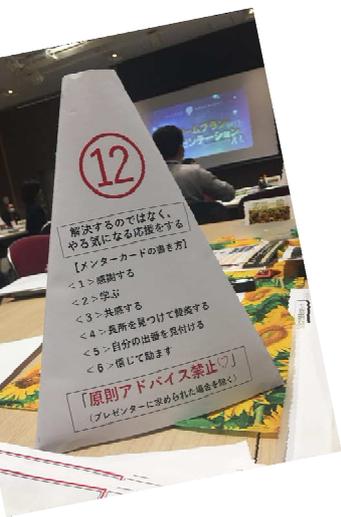
誰に出会ったかによって人生は変わる！

日常生活では、なかなか人かどの人物に出会うことができません。
また、出会ったとしても、本人が気づかないことも多いと思います。

自宅の周りを歩き回っても、なかなか会うことはありません。
このドリプラでは、隣にいる人が実は業界のリーダーであったり
普段の仕事にも関係がある人であったり
業界や領域を越えて、自分が出会いたい人にも、出会えてしまう場がドリプラです。

たくさんの人に出会い、人生を大きく変える可能性もあります。
他人の成長も過程を体験しながら見れることなど、
良いことも、うまくいかないことも、すべて自分自身が成長できるプロセスが、ここにはあります。

それがドリプラです。



ドリプラ感動体験 ＜ドリームメンター編＞



ドリプラ感動体験シート

プレゼンを作成することに悩んだとき(悩み続けたとき)、
全く面識のない人たちに、思いきって、「力を貸してほしい。」と伝えると
数名の方が、3日間付きっきりで、
写真の撮影やプレゼンのシナリオ作り、映像作りを、一緒にサポートしてくれました。

人に物事を頼むことが苦手な私ですが、本当に幸せな気持ちになりました。
「殻」を破ることなど、限界は自分が作っているということに気づかせてもらいました。

また、人に対する接し方も、誠実であれば良いということを実感することができました。

ドリプラで発表してから1年半が経過し
私に取り組んでいるビジネスに対する思いを話した所から
関わってくれている方もいます。

これからは、ドリームメンターとして
これからできる限りのことを応援しようと思っています。

ドリプラ感動体験シート

ドリプラの予選大会、本選大会で、すべてのプレゼンターの発表に涙しました。

「どうして感動したのか？」を振り返ると、自分なりに精一杯応援したからだと感じました。

発表者から名前も顔も覚えてもらえない、そんな関わり方でしたが

相互支援会では、全員にしっかりとコメントを「メンターカード」に書きました。

そして、直接手渡しでプレゼンター全員にお渡しできたこと、

本当に応援したかった気持ちがあったこと、これが理由だと思っています。

プレゼンターが本気で取り組んでいるその姿に

私が共感してしまったとしか言えません。

どのプレゼンターも本気で夢を語り、どんな状況でも決してあきらめない姿があり

そして、それを応援する仲間の姿と、

1度しかない人生を懸命に生きようと、前へ進もうと努力している大人の姿に、

人は自然に応援してしまいます。

それが、ドリプラの魅力であり、世界観です。

ドリプラ感動体験シート

プレゼンターの方が、自分の限界に挑戦し、乗り越えていく姿を見ていると自然に私は何ができるのだろう、応援したいという気持ちになって相互支援会に何度も出席する自分がいました。

また、メンターシートを書くことにより、どんどん相互支援の輪が広がった仲間になりどんなことでも役に立てる、寄り添うことの大切さを実感しました。

そのため、ドリプラの会場では、いろんな事が思い出されて本当に涙無しでは、居ることができませんでした。

会場の一体感もビシビシ感じて、これが、ドリプラなんだと実感しました。本当にありがとうございます！

ドリプラ感動体験シート

どのプレゼンターの方も、最初の相互支援会の時と
実際に本番の大会でプレゼンテーションを発表されている時を比較すると
1人ひとりの成長を目の前で体験することができて
「一緒に関わって良かった！」と感じています。

ドリプラの間では、自分の損得関係も無く応援しているため
ドリプラが終わった後には、本当に充実感を味わっています。

ドリプラ感動体験シート

サポドリにプレゼンターとして参加しました。

最後の相互支援会で、プレゼンを発表したのですが
自分としては自信があり、「バッチリ！」と思っていました。

しかし、ドリームメンターや他の支援者の方々からは
「全く言いたい事が伝わらない。」とか、「全然ダメ！」とか散々な評価でした。

残り2週間で、もう無理だと考えはじめた時に、
「君ならできる！」とか、「まだ2週間あるから、絶対に大丈夫だよ。」と、
励ましてくれる人がたくさんいました。

なぜか、その瞬間に、自分に自信を持つことができ、必ずやりきれると思うことができ
最終的には、自分も仲間も、納得できるプレゼンをすることが出来ました。

以前の私なら、投げ出していたかもしれませんが
私を信頼し、励まし、応援してくれる人が、側にいることを感じる事ができたことが
投げ出さなかった要因だと分析しています。

その後の仕事や日常の生活でも、ドリプラのことがきっかけで
簡単に投げ出すことは無くなり、上手いかないことが楽しく感じる様になりました！

ドリプラ感動体験シート

夢を語る、そして、夢に向かっていく場は、
このドリプラ以外にも結構たくさんあると思いますが
支援する人数が、ものすごく多いことにびっくりしました。

会社にカフェを作って、応援したり、人それぞれの形で
自分ができることに取り組んでいるという雰囲気が、「なじめるなあ。」と感じました。

肩にあまり力を入れないでやっている所も好きです。
リラックスしているけれど、集中しているという感じですね(笑)

ドリプラ感動体験シート

・個別支援会の時に、プレゼンターが1番喜ばせたい人が見えた時に立ち会えた事

・プレゼンターにやる気を出してもらうために

プレゼンターの内面ばかりにフォーカスしていましたが

プレゼンテーションの「場」を、どうすれば良いのかまで私が考えることで

支援の方法は無限に広がることを、プレゼンターから教えてもらいました。

・大人になってから、ほとんど涙を流したことが無いので、自分が泣くために関わっています！

ドリプラ感動体験シート

ドリームメンター、ドリームスタッフとして、支援側に立ちながら同時にドリプラの運営もお手伝いさせていただきました。

毎回ミーティングを行うたびに、様々な方が、本当に善意だけで、ドリプラを通じて社会を良くしていこうとされていました。

ただし、それは、普通のイベントでは表には見えません。裏方というのは、そういう役割であると思っていましたが、ドリプラでは違っていました。

プレゼンターが、自分に向き合い、社会を良くするために毎日成長し想像もつかない「すごさ」を見せてくれます。そして、プレゼンター全員が最高のプレゼンテーションを見せてくれます。

同時に、プレゼンターは、自分たちを支えてくれたドリームスタッフ、ドリームメンターなどこれまでに関わってくれた方々のおかげであると、ドリプラが終わった後にも、労いの言葉や会を開いてくれた時、私は、「ああ、これがドリプラの世界なんだ。」と、プレゼンターたちと一緒に夢の世界を創っていく感動を覚え、体が震えました。

全員が、立場を超えて、応援し合い、感動し合う場所がドリプラであり全員が、成長できる場所がドリプラでもあります。

本当にありがとうございます。感謝の言葉しかありません。

ドリプラ感動体験シート

- ・サポドリで、パートナーをさせてもらった時に
パートナーが支援会や、みんなに応援してもらっていく過程で
どんどん前向きになり、人に信頼感を持ち、自分に自信をつけて変化していく姿を
私は隣で見て、感じて、感動しました！

- ・そして、応援してくれる人々が、本当に優しく、一生懸命に応援して下さい
「ここまでしてくれるのか！」と私自身も感動し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。
「人っていいなあ！」と、強く想いました。
ドリプラでつながった仲間は、生涯の仲間になると思います。

- ・個別支援会では、原則アドバイス禁止ですが
様々な人からの意見や視点は、「多様性の力」をいつも実感します。
「違う意見や視点があって、いいなあ！」
「それぞれの役割や出番になっているなあ！」と、思っています。

ドリプラ感動体験シート

初めての参加になります。

なぜ、ドリプラに関わろうと思ったのか？

それは、「自分が忘れかけていたこと」だと思ったからです。

子供の頃は、多分、誰もが大きな夢があったと思います。

私も、たくさん大きな夢を持っていました。

大人になるにつれて、あきらめる事を覚えてしまい、それが普通になり

いつの間にか、夢は叶わないと思いこんでいたのです。

社会人になると、夢を語る事が恥ずかしいし、また、その場面すらない状態です。

そんな時に、福島先生の講座で

「大人が夢を語る場＝ドリプラ」というのがあると知って、昔を思い出しました。

夢を本気で語る人たちを見たい、応援したい。

自分の思いから、ドリームメンターとして参加させていただきました。

ドリプラ感動体験シート

都立高校ドリプラで講師として関わりました。

担当したクラスに内気な女子生徒がいましたが
自分の夢をクラス全員の前で立派に発表してくれました。

さらに、自分から勇気を持って、立候補し、クラス代表として
学年240名の前で堂々と夢を語ってくれました。

そして、驚くべきことに、学校代表3人のうちの1人に立候補し、
12月の総合高校10校が集まる発表会で、学校代表として発表することに決まりました。

多分、彼女は「自分を変えたい！」と思い、その機会を探し、そして行動したのでしょう。
今回のドリプラ授業が、きっかけとなり、彼女の心を突き動かしたようです。

彼女の変化しようと努力する姿を見たときに、とても感動し、
今後も見守っていきたいと思いました。

ドリプラ感動体験シート

プレゼンターとして、10分間プレゼンを何百回とシナリオを練り直し、書き直しを行い毎日、毎時間、自分と向き合い続けることができました。

自分が、
話したいこと、
やりたいこと、
伝えたいこと、をプレゼンをしている間は、全く伝わらず、

いつの間にか相手の
見たいこと、
聞きたいこと、
やってみたいこと、をプレゼンできるようになり、

対人コミュニケーションそのものに、大きな変化が自分に起こっていました。

自分視点と相手視点の「発見体験」は
その後の人生に大きく役立っています。

気づいた時に、自分が立ち戻れるプレゼンターの経験が自信となっています。

ドリプラ感動体験シート

私が、まだドリプラの支援についてよく分からなかった頃、
個別支援会で、あるプレゼンターのプレゼンテーションを見ていました。

それまで、「アドバイスはいけない」、「肯定的にしないといけない」と思い込んで
深い思いを話せなかった私は、人と仲良くなるような会話も苦手で、
イマイチ溶け込めていませんでした。

その日の、プレゼンターの発表に対しても、正直何を言いたいのか分からず、思わず
「結局、何をしたいんですか？よく分からない。」
と、批判をしてしまったのです。

気まずい空気が流れて、私は、思わず言ってしまったことを後悔しました。
でも、それまでの付き合い方が、表面的だったのが、「ぐっ」と近くなれた瞬間でもありました。

その後、本音で支援させていただき、最終日には、チームみんなで夜通しプレゼンテーションを
作り上げ、私たちは、本気のプレゼンターと支援者となりました。

ドリプラが終わった後も、関係は続き、夢の実現に向けて支援は続いています。
海外へ支援に伺ったこともありますが、何より「ドリプラ」での経験が、
支援を続けるきっかけになっていることが、嬉しい。

これからも、支援を続けて、夢を叶えるサポートを一生していきます。

ドリプラ感動体験シート

成り行きで、始めることになったドリームメンターですが
最初に会った先輩ドリメンの言葉に感動しました。

「この人をロールモデルにして、ドリメンを続けていこう。」と決意しました。
その言葉は・・・秘密です。

ドリメンとして、未熟な私は、相互支援会の中で
よく失言することや、見本とならない行動もありました。
そんな時、その事例を他のドリメンにも、自分から共有し、情報交換いたしました。

次の相互支援会の場では、ドリメンのみなさんの温かい目、
理解しているよという視線に、涙したものでした。

幸せな私です。

ドリプラ感動体験シート

ドリプラの予選大会前日に、
プレゼンテーションが、真っ白になってしまったプレゼンターがいました。

さて、どうするか・・・？ということになり、ホテルを取っているということで
終電まで付き合おうと思い、プレゼンター1名、支援者7名で向かいました。

そのホテルのロビーで、どんなプレゼンテーションにするのかを、みんなで考えたのですが
なかなかストーリー作りが進みませんでした。

そしていつの間にか、時間が経ち、ホテル側もロビーの電気を少しだけ暗く落とした所・・・。

次の瞬間、奇跡というか、ホテル側が、私たちに配慮してくれたのか、
また、電気を元の明るさに戻してくれました。

私たちの真剣さに、感動したのかどうかは分かりませんが、
人が本気になる、周りの人が協力してくれるのだと言うことを感じました。

それからは、結局徹夜になりましたが
真っ白な部分が、何とか、真っ黒にでき上がりました。

当日見たプレゼンテーションは、一番素晴らしく感じました。
一夜を懸命に過ごして、プレゼン作りに関わったことが、
自分が作ったプレゼンのように感じたからだと思います。

ドリプラのプレゼンは、ただ見ても感動するかもしれませんが、
プレゼン作りに関わると、充実感も味わえることを、プレゼンターから教えてもらいました。

ドリプラ感動体験シート

「ドリプラ」って何だろう？

ドリスタ、ドリメンの方って、どうしてこんなにも、ドリプラに関わっているのだろう？
という疑問を最初に持っていました。

人々を惹きつけるドリプラの魅力を知りたくて、
そのためにドリメンを続けて、今年で4年目になりました。

毎年、少しずつ、その理由が分かってきている感覚があります。

悩み、苦しみ、自分と向き合っ、大会当日の発表の日に
それぞれの思いを伝えているプレゼンターの方たちの姿には、勇気と感動をいただきます。

しかし、それ以上に、裏でプレゼンターを支えている実行委員長や、
事務局、スタッフ、ドリメンの姿に尊敬の念を抱いています。
見本を見せて下さっている方々に感謝し、
こうした方々と一緒になって他者を応援できる環境に感謝しています。

私にとってドリプラとは、素敵な人達に囲まれて、素晴らしい仲間たちと共に
「輝ける社会」という共通の夢に向けて進んでいける場です。

ドリプラの魅力をまだまだ発見したいので、
これからもドリメンとして、関わっていきたいと思います(^_^)